

中・高校生の部 入選

飛驒市立古川中学校 三年 小島邦斗

中学校生活最後の夏。暑い日が続いた夏休みの一番の思い出は、三重県で行われた陸上の東海大会です。と、言っても僕が出場したわけではありません。同じ学校の同級生Yさんが男子百メートルに出場したので、その応援をしにいきました。

Yさんはものすごい努力家で、毎日家に帰ったら筋トレをして、朝練習もしていて、陸上部のキャプテンをし、唯一の東海大会出場者でした。そのため学校のテントはなく、自分で場所を取るというふうでした。でも、当日教えてもらった場所に行ったら、高山、古川、神岡関係なく飛驒地区として場所がとってありました。そして、僕は出場するわけでもないのに、他の学校の先生から、「暑いから入りなよ」と言われました。僕はさすがにすごい選手の中に混じわるのはちょっとヤバイと思い、ことわりました。でも、自分は心の中ですごくビックリして驚いていました。それは、みんな同じ競技の人もいて、ライバルでもあり敵同士なのに同じブルーシートの中に地区関係なくいたからです。そして、Yさんはバラバラの地区の人達と移動したり、話していたりしていました。

そこで僕は初めて、自分の種目や住んでいる町関係なくいれる飛驒地区の陸上は感動的でなんて素晴らしい部活なんだと思いました。そして、ぼくは恥ずかしいという思い近づけなかったトップレベルの選手がうらやましくなりました。

僕は小中合わせて九年間陸上をやってきましたが、こんなに深い気持ちになったのは、初めてです。本当に東海大会に出たYさんはすごいし、なぜか感動の気持ちも出てきます。そんな陸上をやって良かったと改めて思えた中学最後の最高の夏休みでした。